

**Session Chair: John Lantos, MD**  
**April 29, 2010 1:30 pm - 5:30 pm**

---

Louis J Muglia, PhD, MD

*BioVU: The future of Pediatric Biobanking at Vanderbilt University*  
1:30 pm - 2:00 pm

Kyle B Brothers, MD

*Ethical and Legal Barriers to Pediatric Biobanking Initiatives*  
2:00 pm - 2:30 pm

Break

2:30 pm - 3:00 pm

John Lantos, MD

*Critical Issues in Pediatric Ethics: Consent, Assent and Distributive Justice*  
3:00 pm - 3:30 pm

Hidefumi Nakamura, MD, PhD

*Ethical and Social Challenges facing pharmacogenomic research and implementation of personalized medicine in children: Japanese perspective*  
3:30 pm - 4:00 pm

John Lantos, MD

*Structured Discussion*  
4:00 pm - 5:00 pm

---

Poster Session

5:00 pm - 7:00 pm

---

**Session 3:**

**Clinical Applications**

**Session Chair: J Steven Leeder, PharmD, PhD**

**April 30, 2010 8:00 am - 12:00 noon**

---

J Steven Leeder, PharmD, PhD

*Pediatric Pharmacogenomics: What Makes Children Different*  
8:00 am - 8:30 am

Robert "Skip" M Nelson, MD, PhD

*Ethical Implications of Pediatric Genomics: A Regulatory Perspective*  
8:30 am - 9:00 am

William E Evans, PharmD

*Pharmacogenomics and Advances in Treatment of ALL*  
9:00 am - 9:30 am

Break

9:30 am - 10:00 am

Bruce C Carleton, PharmD

*Canadian Pharmacogenomics Network for Drug Safety: Genomic Approaches to Adverse Drug Reactions in Children*  
10:00 am - 10:30 am

Mara L Becker, MD, MSCE

*Making a Difference: Challenges of Incorporating Pharmacogenomics into the Treatment of Juvenile Idiopathic Arthritis.*  
10:30 am - 11:00 am

Bertram H Lubin, MD

*Cooperation, Collaboration and the Success of Pediatric Pharmacogenomic Initiatives*  
11:00 am - 11:30 am

Stephen P Spielberg, MD, PhD

*Personalized Medicine for Children: Where Are We and Where Are We Headed?*  
11:30 am - 12:00 noon

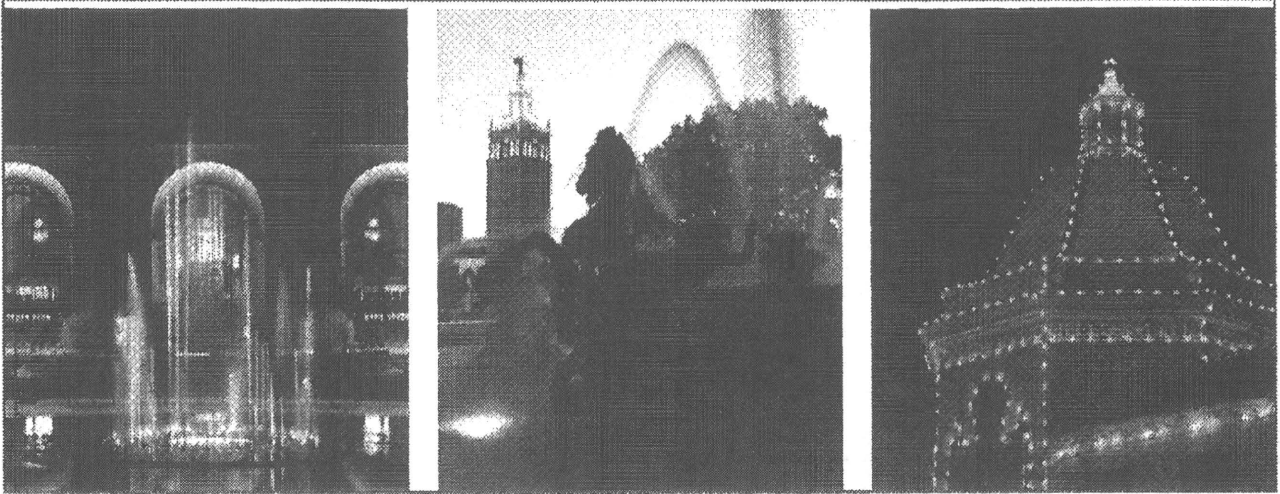
[Close Conference](#)

---

[Continue](#)

[Terms of Use](#) [Privacy Policy](#) [Data Security](#)

[Home](#) [Contact Info](#)



# 新薬開発プロジェクトリーダー育成コース 開催ご通知



この度は、標記コースにお申込みいただき誠にありがとうございます。受講にあたり、下記の通りご案内申し上げます。

コース：2010年度 新薬開発プロジェクトリーダー育成コース

日時：2010年5月20日(木)～5月21日(金)  
(初日(5月20日)の朝8:45から受付を行います)

会場：財団法人 日本科学技術連盟 千駄ヶ谷ビル 3号館 2階講堂  
JR「代々木駅」・東口出口より徒歩7分、JR「千駄ヶ谷駅」・徒歩5分  
東京メトロ副都心線「北参道駅」・1出口より徒歩5分  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11 (別記略図をご覧ください)

時間割：別記をご覧ください。

持参資材：本状、筆記用具、を各自ご持参下さい。

1. テキストおよび資料は開催初日に会場受付でお渡しいたします。※事前酒付けはいたしません。
2. 添付の「調査票」に必要事項をご記入の上、**5月12日(水)必着**でFAX(03-5378-9844)にて事務局までご返送ください。  
修了証は「調査票」に基づいて作成いたしますので、会社名、氏名は正確にご記入ください。  
※調査票のご記入にあたりましては、調査票裏面の「個人情報のお取り扱いについて」を必ずご確認ください。
3. 講義時間中の携帯電話のご使用、テープレコーダー、ビデオなどによる録音および録画をご遠慮ください。
4. 講義時間中は電話のお取り次ぎはいたしません。予め関係各位にその旨をご周知ください。事務局で受けた伝言は、伝言板にメモを掲示しますので、休憩時間に必ずご確認ください。
5. 貴重品は常に身につけて保管してください。盗難等につきましては責任を負いかねますので、十分にご注意ください。
6. 昼食は参加費に含まれておりません。近くの飲食店をご利用いただくか、ご持参ください。
7. 当会場に近いホテルのご案内  
◆新宿パークホテル TEL 03-3356-0241 (会場まで徒歩約7分)  
◆教弘会館 TEL 03-3354-5581 (会場まで徒歩約2分)
8. 参加申し込み事項の変更の場合はお早めにセミナー受付グループ宛にFAXでご連絡ください。  
※お申し込みのキャンセルは、別紙「セミナーお申込に関するキャンセルのお取り扱いとお願い」をご確認のうえ、セミナー受付までお願いします。  
《氏名変更等・受付に関する問合せ先》  
セミナー受付グループ担当  
TEL:03-5379-1233 FAX:03-3225-1814 e-mail:regist@juse.or.jp
9. 当コース内容に関する問合せ先  
(財)日本科学技術連盟 教育推進部 第二課 医薬グループ  
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1  
TEL:03-5378-9851 FAX:03-5378-9844 e-mail:jusemsd@juse.or.jp

2010年 新薬開発プロジェクトリーダー育成コースカリキュラム予定

(敬称略)

月	日	時間	講義内容	講師
5月	20日 (木)	9:30~11:00	プロジェクトリーダーの役割と必要性 ・オーケストラには指揮者が必要 では、医薬品開発の指揮者の役割とは	リーベンス 代表取締役 伊藤正春
		11:15~12:45	新医薬品開発の留意点	医薬品医療機器総合機構 生物第二部長 鹿野真弓
		13:45~15:15	新医薬品開発の留意点	医薬品医療機器総合機構 新薬審査第二部 臨床医学審査員 村上真紀
	21日 (金)	15:30~17:00	データの品質管理とデータマネジメント ・データマネジメントの基本 ・データの品質管理とは	シンバイオ製薬 臨床開発推進部 澤向慶司
		9:30~12:30	わかりやすい統計学の基礎 ・データの種類とそれぞれの要約方法 ・仮説検定の基本原理と信頼区間の算出 ・解析結果を読む際に必要な知識(オッズ比, ハザード比)	東京大学大学院医学系研究科 竹内文乃
		13:30~16:30	わかりやすい薬物動態の基礎 ・非臨床試験成績の読み方 ・第1相試験成績の読み方 ・開発を進める際の留意点	中外製薬 臨床企画推進部 寺尾公男
6月	24日 (木)	9:30~12:30	臨床試験の基本 ・基礎となる3要素 ・プロトコル逸脱とバイアス・ばらつき ・安全性データの評価手順	アラメディック 代表取締役 林健一
		13:30~15:00	探索段階の臨床試験 ・開発成功確率の向上, GO/NO GO の判断 ・Proof of Concept, Proof of Mechanism ・バイオマーカーの選択 ・臨床開発と製剤開発	第一三共 プロジェクト推進部 田中眞
		15:15~16:45	ファーマコメトリックス ・ファーマコメトリックスとは何か ・医薬品開発に占めるファーマコメトリックスの役割	講師依頼中
	25日 (金)	9:30~12:30	米国, 欧州での医薬品開発の留意点: ・米国と欧州の承認申請の手続き ・CROの選定, 契約, マネジメント ・海外試験のプロジェクト管理	ポイントパストドットビズ 代表取締役 脇 豊
		13:30~16:30	開発戦略の作成 ・Clinical Development Plan (CDP)とは何か ・なぜCDPが必要なのか ・CDPに記載すべき項目と内容	アラメディック 代表取締役 林健一
7月	22日 (木)	9:30~12:30	臨床試験のデザイン: 最近の傾向	東京大学 大学院医学系研究科 大橋靖雄
		13:30~16:30	プロトコルの作成方法 ・読者は誰か ・どのような目的で作成する文書なのか ・どのような構成にすべきか ・各セクションに記載すべき内容 ・プロトコルと開発戦略との関係	アラメディック 代表取締役 林健一
	23日 (金)	9:30~12:30	毒性試験成績の読み方 ・一般毒性試験 ・遺伝毒性試験 ・生殖発生毒性試験	エーザイ 安全性研究部 青木豊彦
		13:30~15:00	Adaptive Design ・Adaptive Design とはいったい何か ・Adaptive Design のメリットとデメリット ・臨床部門は何に留意すべきか	講師依頼中
		15:30~17:00	Electronic Data Capture ・Electronic Data Capture の基本 ・実施上の留意点	シンバイオ製薬 臨床開発推進部 澤向慶司

月	日	時間	講義内容	講師
8月	18日 (水)	9:30~11:00	アジア共同治験 ・各国の規制要求 ・アジア共同治験実施上の留意点 ・CRO委託時の留意点	第一三共 アジア開発部 村山 恵美子
		11:15~12:45	医薬品開発のプロジェクト管理 ・プロジェクト管理の手法 ・プロジェクト管理を運用する際の留意点	講師依頼中
		13:45~16:45	わかりやすい文章の書き方 ・わかりやすいセンテンスの書き方 ・わかりやすいパラグラフの書き方	アラメディック 代表取締役 林健一
	19日 (木)	9:30~12:30	演習：コミュニケーションギャップ	運営委員
		13:30~17:00	演習：コミュニケーションギャップ	運営委員
9月	9日 (木)	9:30~12:30	医薬品の安全性管理 ・開発から製造販売後までの安全性管理 ・米国や欧州の要求	講師依頼中
		13:30~15:00	開発段階の医薬品の安全性管理： ICH E2E と E2F を踏まえて	医薬品医療機器総合機構 安全第二部 調査役 佐藤淳子
		15:15~16:45	国際共同開発の留意点	医薬品医療機器総合機構 新薬審査第三部 審査役 宇山佳明
	10日 (金)	9:30~12:30	循環器領域の臨床試験の特徴と留意点： ・対象集団の設定 ・エンドポイントの設定 ・最近の臨床試験の特徴	山口大学医学部附属病院 梅本誠治
		13:30~16:30	抗がん薬の臨床試験の特徴と留意点： ・化学療法剤の臨床試験 ・分子標的治療薬の臨床試験 ・バイオマーカーを選択する際の留意点	埼玉医科大学国際医療センター 臨床腫瘍科 佐々木康綱

※都合によりカリキュラムを変更する場合がございます。



# 第52回 日本小児神経学会総会

The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society of Child Neurology



## プログラム

Program

5月19日(水) 学会前日

5月20日(木) 第1日目

5月21日(金) 第2日目

5月22日(土) 第3日目

## 主要プログラム

### 5月19日(水) : 学会前日

15時開会式(15:00~18:30)

新生児脳波判読集中セミナー「発達変化の理解から異常脳波の判読まで」

座長 新島新一(順天堂大学練馬病院小児科)

1) 正常産児の正常脳波と異常脳波

加藤 徹(岡崎市民病院小児科)

2) 早産児の正常脳波と異常脳波

丸山幸一(愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科)

3) 新生児発作と脳波モニタリング

奥村彰久(順天堂大学小児科・思春期科学)

4) インタラクティブコーナー

奥村彰久(順天堂大学小児科・思春期科学)

加藤 徹(岡崎市民病院小児科)

丸山幸一(愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科)

### 5月20日(木) : 第1日目

9時開会式(9:00~9:30)

RetT症候群に学ぶー臨床・基礎研究からの22年と今後の展望

松石豊次郎(久留米大学小児科)

10時開会式(9:30~10:20)

RetT syndrome and MECP2 – status of knowledge 10 years after the gene

Uta Francke(Department of Genetics and Pediatrics, Stanford University School of Medicine, CA, USA)

10時開会式(10:20~11:10)

成長ホルモン分泌と食欲を刺激するホルモン“グレリン”の多彩な生理作用

児島将康(久留米大学分子生命科学研究科研究所遺伝情報研究部門)

11時開会式(11:10~11:40)

筋ジストロフィー 研究から学んだこと

壺中征哉(国立精神・神経センター病院名誉病院長)

13時開会式(13:00~13:50)

New horizons in neuroprotection of the newborn: cooling is just the beginning

Nicola J Robertson (Centre for Perinatal Brain Research, Institute for Women's Health, University College London, London, UK)

13時開会式(13:00~13:45)

ジストロフィーの治療の最前線

平 孝臣(東京女子医科大学脳神経外科)

13時開会式(13:00~13:45)

児童虐待が脳に及ぼす影響ー脳科学と子どもの発達行動

友田明美(熊本大学大学院小児発達学)

13時開会式(13:45~14:30)

Parenting and sleep in early childhood

Avi Sadeh (Department of Psychology, Tel Aviv University, Tel Aviv, Israel)

13時開会式(13:50~15:50)

周産期脳傷害と向き合うためにー分野を超えた専門知識の相互リンクがもたらすもの

座長 奥村彰久(順天堂大学小児科・思春期科学)

早川昌弘(名古屋大学附属病院周産母子センター)

1) アクアポリンの基礎と臨床、特に脳浮腫との関連において

安井正人(慶應義塾大学薬理学)

2) 急性脳損傷と磁気共鳴診断ー仮想病理空間はどこまで実病態に迫るのか?

岩田聡介(久留米大学小児科)

3) 中枢神経疾患に対する幹細胞療法ー周産期脳障害の救世主となりうるか?

佐藤義朗(名古屋大学附属病院周産母子センター)

4) 産婦人科医からみた周産期脳障害

池田智明(国立循環器病センター周産期科)

5) 周産期医療と療育の連携ー「安心感」を育てるシステムの構築ー

小沢 浩(島田療育センター)

14時開会式(14:30~16:20)

眠りの科学「大切な子どもの睡眠」

座長 神山 遼(東京ベイ・浦安市川医療センター小児科)

桑 和彦(熊本大学発生医学研究所多能性幹細胞分野)

1) 睡眠覚醒調節の分子機構

裏出良博(財)大阪バイオサイエンス研究所分子行動生物学部門)

2) 睡眠の生理的意義と体内時計との関係

桑 和彦(熊本大学発生医学研究所多能性幹細胞分野)

3) 子どもの睡眠をめぐる現状－実態調査から

岩崎瑞枝

(科学技術振興機構社会技術研究開発センター「脳科学と社会」研究開発領域)

4) 子どもの睡眠障害の診断と治療

内村直尚(久留米大学神経精神科)

5月21日(金)：第2日目

1) シンク総合セミナー1 (8:00~9:00)

特異的発症障害とくに発症竹読み書き障害の診断・治療ガイドラインの紹介

座長 橋本俊顕(徳島赤十字ひのみね総合療育センター)

講演 稲垣真澄(国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部)

2) シンク教育セミナー2 (8:00~9:00)

希少疾患の治療薬開発に対して臨床医は何をすべきか

筋ジストロフィー患者データベース(remedy)を中心として

川井 亮<sup>1)</sup>, 中村治雅<sup>2)</sup>, 森まどか<sup>3)</sup>, 小牧宏文<sup>4)</sup>, 後藤加奈子<sup>5)</sup>, 松田 悠<sup>6)</sup>, 林由起子<sup>7)</sup>

西野一三<sup>8)</sup>, 松村 剛<sup>9)</sup>

(国立病院機構東埼玉病院神経内科<sup>1)</sup>, 国立精神・神経センター病院神経内科<sup>2)</sup>,

同病院 小児神経科<sup>3)</sup>, 同 神経研究所疾病研究第一部<sup>4)</sup>, 国立病院機構刀根山病院

神経内科<sup>5)</sup>

3) シンク総合セミナー3 (8:00~9:00)

小児神経学会が支援する共同研究(共同研究支援委員会)

座長 佐々木征行(国立精神・神経センター病院小児神経科)

杉江秀夫 (自治医科大学小児科)

1) 保存乾燥標本を用いた先天性リトメガロウイルス感染症の診断と病態解析

榎松 貢(東北大学小児科)

2) 急性脳症の分子遺伝学的病態解析

水口 雅(東京大学大学院発達医学)

3) 小児期に発症するてんかん重複状態に対する静脈用フェノバルビタールのエビデンスに関する臨床的研究

今高城治<sup>1)</sup>, 山内秀雄<sup>2)</sup>(獨協医科大学小児科<sup>1)</sup>, 埼玉医科大学小児科<sup>2)</sup>

4) 先天性大脳白質形成不全症の診断と治療に向けた研究

井上 健(国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第二部)

5) 在宅の超量症児・準超量症児の生活実態についてのアンケート調査

小沢 浩(島田療育センター小児科)

特別講演 (9:00~9:50)

自閉症トド型マウスモデルの開発と小児神経学への展開

内匠 透(広島大学大学院歯薬学総合研究科)

1) シンクセミナー4 (9:00~11:00)

診療における心理士の在り方

座長 小西行郎(同志社大学赤ちゃん学研究センター)

利島 保(広島県立大学)

1) 健康・医療と心理学－学術会議からの提言

長谷川寿一(東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系)

2) 神経内科が望む心理士像

福山秀直(京都市医学研究科高次脳機能総合研究センター)

3) 精神科医療における心理職の役割と国家資格化の課題

佐藤忠彦(社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院)

2) シンクセミナー5 (9:50~12:00)

小児神経症候群－分子生物学の進歩と治療最前線

座長 大野耕策(鳥取大学脳神経小児科)

杉江秀夫(自治医科大学小児科)

1) Channelopathy (チャネル異常によるてんかん)の分子病態と治療への応用

廣瀬伸一(福岡大学小児科)

2) Duchenne型筋ジストロフィーに対する分子治療学の進歩

武田伸一(国立精神・神経センタートランスレーショナル・メディカルセンター、神経研究所遺伝子疾患治療研究部)

3) ミトコンドリア病研究の進歩と治療法開発の最前線

古賀謙敏(久留米大学小児科)

4) Charcot-Marie-Tooth病の分子遺伝学－治療への展望

高嶋 博(鹿児島大学大学院神経内科・老年病学)

3) シンクセミナー6 (11:00~11:40)

13:10-13:55

iPS細胞技術と遺伝子改変型長鎖RNAを用いた神経再生・神経疾患研究  
岡野栄之(慶應義塾大学生理学)

13:10-15:10

病所の最近の話題

座長 水口 雅(東京大学大学院発達医学)

- 1) はじめに  
水口 雅(東京大学大学院発達医学)
- 2) 小児の脳死判定の進め方  
阿部俊昭(東京慈恵会医科大学脳神経外科)
- 3) 小児の脳死判定における脳波検査  
廣澤秀治(船橋市立医療センター脳神経外科)
- 4) 脳死下臓器提供小児から被虐待児を除く診断マニュアル  
山田不二子(医療法人社団三彦会山田内科胃腸科クリニック)
- 5) 慢性脳死の歴史と課題  
杉本健郎(すぎもとポーンクリニック)

19:00-21:00

社会活動委員会 重症児者が地域で安全に快癒にいきるために「ショートステイ」「レスバ  
イト入院」

- 座長 杉本健郎(すぎもとポーンクリニック)
- 1) 医療的ケアが必要な子どものレスバイトケアー診療所からの実践報告ー  
高橋昭彦(みばりクリニック)
  - 2) 小児専門病院におけるレスバイト入院の現状  
鳥邊泰久(大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科, 同 在宅医療支援室)
  - 3) 重症児(者)が地域で安全に暮らせるために: 国立病院機構の立場から  
石田修一(NHOまつもと医療センター中宿松本病院小児科)
  - 4) 重症心身障害児・者施設のショートステイの現状  
岩崎裕治(都立東部療養センター)

19:00-21:00

第4回子どもの眠り研究会

- 座長 神山 澁(東京ベイ・浦安市川医療センター小児科)  
谷池雅子(大阪大学大学院子どものこころの分子統御機構研究センター)
- 1) 小児睡眠ポリグラフィのプレパレーションの試み ~発達障害児における効果は~  
村田絵美(大阪大学大学院子どものこころの分子統御機構研究センター)
  - 2) Actigraphによる子どもの生活リズムの振り返りの効果  
ー1歳児・2歳児を育てる母親への援助を考えるー  
安積陽子<sup>1</sup>, 高田 哲<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>甲南女子大学看護リハビリテーション学部<sup>2</sup>, 神戸大学大学院保健学研究科<sup>2</sup>)
  - 3) CD法を用いた小児睡眠中の心拍変動解析  
大木 昇(のふるライトシステムズ)
  - 4) 錯乱性覚醒(朝型)が疑われる14歳女児  
齋藤なか<sup>1</sup>, 神山 澁<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>鶴岡市立荏内病院小児科<sup>2</sup>, 東京北社会保険病院睡眠外来<sup>2</sup>)

- 5) 周期性過眠症の1例  
松澤重行, 田島世貴, 高井一美, 三池輝久(兵庫県立総合リハビリテーションセン  
ター中央病院子どもの睡眠と発達医療センター小児科)
- 6) 光環境調節による睡眠覚醒リズム形成の試みと親子関係の検討  
高野美音<sup>1,2</sup>, 上土井貴子<sup>3</sup>, 川谷淳子<sup>2</sup>, 友田明美<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>平成音楽大学<sup>2</sup>, 熊本大学医学部付属病院発達小児科<sup>2</sup>)
- 7) 「子どもの眠りの質問票」を用いた小児睡眠関連疾患の疫学についての検討  
加藤久美<sup>1,2</sup>, 清水佐知子<sup>3</sup>, 人野ゆう子<sup>3</sup>, 毛利育子<sup>4</sup>, 辻富士子<sup>5</sup>, 松本小百合<sup>6</sup>,  
谷池雅子<sup>1,4</sup>  
(<sup>1</sup>大阪大学大学院子どものこころの分子統御機構研究センター<sup>1</sup>, 太田睡眠科学セン  
ター<sup>2</sup>, 大阪大学大学院数理保健学研究室<sup>3</sup>, 大阪大学連合大学院小児発達学研究  
科<sup>4</sup>, 堺市子ども青少年局子育て支援部保健課<sup>5</sup>, 東大阪市保健所<sup>6</sup>)
- 8) Asia Pacific Pediatric Sleep Alliance (APPSA) の活動報告  
神山 澁(東京ベイ浦安市川医療センター小児科)

19:00-21:00

薬学委員会 静注用フェノバルビタールによるてんかん重複状態の治療法の確立に向けて

- 座長 大塚頌子(岡山大学大学院発達神経病態学)
- 山内秀雄(埼玉医科大学小児科)
- 1) 静注用フェノバルビタール使用例の実例  
宮本雄策, 山本 仁(聖マリアンナ医科大学小児科)
  - 2) フェノバル静脈注射製剤の着効例  
渡邊薫草, 橋島雅子, 大塚頌子(岡山大学大学院発達神経病態学(小児神経科))
  - 3) 当院におけるフェノバルビタール静注用製剤(静注用PB)の使用経験  
酒井哲郎, 山内秀雄(埼玉医科大学病院小児科)
  - 4) 小児けいれん 重積およびけいれん頻発における静注用フェノバルビタールの有効性と安全性



高池健二郎、浜野晋一郎(埼玉県立小児医療センター神経科)

- 5) てんかんによる群発型けいれん重積に対するフェノバルビタール静注の投与量の検討  
須貝研司(国立精神・神経センター病院小児神経科)
  - 6) 当院における静注用フェノバルビタールの使用状況と共同研究実施上の問題点  
今高城治(獨協医科大学小児科)
- 7) 小児けいれん重積症治療ガイドラインにおけるフェノバルビタール静注薬の位置づけ  
林 北見(東京女子医科大学八千代医療センター発達小児科)

19:00～21:00

新しい乳幼児健診 知覚認知課題を用いて

座長 金沢 創(日本女子大学人間社会学部心理学科)

- 1) 知覚認知課題を用いた新しい乳幼児健診  
金沢 創(日本女子大学人間社会学部心理学科)
- 2) 乳幼児健診デジタル検査結果 —preliminary study—  
藤井靖史(帝京大学大学院教職大学院院院研究科)
- 3) 発達障害児における視覚的注意機能の実験心理学的検討  
日比優子(静岡英和学院大学人間社会学部人間社会学科)

19:00～21:00

薬事委員会 痙攣麻痺のボツリヌス治療

問題症例検討会 よりよい下肢痙攣治療を目指して

座長 根津敦夫(横浜医療センター神経小児科)

高橋保彦(九州厚生年金病院小児科)

- 1) 痙攣型痙攣および片麻痺児でのボツリヌス治療の有効性の検討  
—当センターでの経験から—  
吉田菜穂子(聖ミゼリコディア医療福祉センター小児科)
- 2) 小児脳性麻痺下肢痙攣に対するボツリヌス投与の経験  
足立昌夫(加古川市民病院小児科)
- 3) 小児脳性麻痺の尖足に対するA型ボツリヌス毒素治療の長期予後  
根津敦夫、青山晴彦、唐沢久美子、岩本弘子、筑丸ゆり、金子かおり、黒澤真紀子、  
松尾多希子(横浜医療センター神経小児科)
- 4) 痙攣マヒ小児の下肢痙攣に対するA型ボツリヌス毒素療法  
高橋保彦(九州厚生年金病院小児科)
- 5) 指定発言  
夏條 恵(新潟県はまぐみ小児療養センター小児科)

## 5月22日(土)：第3日目

8:00～9:00

小児の頭痛～片頭痛の診断と治療～

安藤直樹(名古屋市立大学大学院新生児・小児医学)

8:00～9:00

小児神経科医が知っておくべき感染症の最新知識

座長 泉 達郎(人分小児科)

講演 原 寿郎(九州大学大学院成長発達医学分野)

8:00～9:00

小児神経放射線診断 臨床に役立つMRIのkey所見

中野宮英綱(国際医療福祉大学大学院放射線・情報科学分野、ももち浜福岡山王病院放射線診断科)

9:00～11:00

子どもの発達コホート研究の意義と課題

座長 小泉英明(株式会社日立製作所基礎研究所)

山縣然太郎(山梨大学大学院医学工学総合研究部)

- 1) なぜ、今、コホート研究が重要なのか?  
小泉英明(科学技術振興機構、株式会社日立製作所)
- 2) 子どもの発達コホート研究におけるイメージング研究の意義  
定藤規弘(自然科学研究機構生理学研究所)
- 3) コホート研究と医師観察の意義  
富和清隆(京都大学大学院産科看護学センターコーディネータユニット)
- 4) 乳児の行動から、社会性の発達を予測する  
榎原洋一(お茶の水女子大学人間発達教育研究センターチャイルドケアアンドエデュケーション講座)
- 5) コホート研究からみる発達のトラジェクトリー  
小枝達也(鳥取大学地域学部地域教育学科)
- 6) すすくコホートの成果を今後につなげるために  
山縣然太郎(山梨大学大学院医学工学総合研究部)

9:00～11:00

急性脳症の診断・研究最前線

座長 市山高志(山口大学大学院小児科学)

高梨直樹(岡山大学小児科)

- 1) インフルエンザ脳症の最新情報  
水口 雅(東京大学大学院発達医学)
- 2) 小児急性脳症の臨床と画像

## SAS<sup>®</sup> SQL1:必須要素 (2日間)

### 概要

本コースでは、SQL(Structured Query Language)を使用したSASデータの処理方法について紹介します。

本コースは、SAS認定試験「SAS Certified Advanced Programmer for SAS 9 Credential」の準備にも適しています。

### 受講対象

SASプログラマーやビジネス・アナリスト

### 前提知識

本コースの受講には、次のことが必要です。

- ・お使いのオペレーティング・システム上でSASプログラムが実行できること
- ・SASデータセットを作成しアクセスできること
- ・数値演算、比較演算、論理演算が利用できること
- ・SASプロシジャを起動できること

※これらの内容は「SASプログラミング1:必須要素」コースで学習することができます。

SQLに関する知識は必要ではありません。

### 学習内容

- ・データのクエリとサブセット
- ・データの集計と表現
- ・テーブルの結合、複雑なジョインやマージ含む
- ・テーブル、ビュー、インデックスの作成と編集
- ・1つのSQLクエリでの複数のDATAステップやPROCステップの置き換え

### コンテンツ

- はじめに
  - ・コース概要
  - ・SQL(Structured Query Language)概要
  - ・ビジネスシナリオ イントロダクション
- 基本のクエリ
  - ・SQLプロシジャの概要
  - ・列の指定
  - ・行の指定
- クエリ結果の表示
  - ・データの表現
  - ・データの要約
- サブクエリ
  - ・関連性のないサブクエリ
  - ・関連性のあるサブクエリ(自己学習)
- SQL結合
  - ・SQL結合 イントロダクション
  - ・複雑なSQL結合
- セット演算子

- ・セット演算子 イントロダクション
- ・EXCEPT演算子
- ・INTERSECT演算子
- ・UNION演算子
- ・OUTER UNION演算子
- テーブルとビューの作成
  - ・SQLプロシジャによるテーブルの作成
  - ・一貫性制約 (自己学習)
  - ・SQLプロシジャによるビューの作成
- テーブルの管理
  - ・インデックスの作成
  - ・テーブルの保守
- 追加のPROC SQL機能
  - ・SQLプロシジャ・オプションの設定
  - ・ディクショナリ・テーブルとビュー
  - ・PROC SQLとマクロ言語のインターフェイス
  - ・プログラムのテストとパフォーマンス
- リレーショナル・データベースへのアクセス (自己学習)
  - ・DBMSデータへのLIBNAMEアクセス
  - ・SQLパススルー機能を使用したDBMS固有のSQLの実行

## 対象プロダクト

Base SAS®

## SAS<sup>®</sup> マクロ言語2: マクロ・アプリケーション開発 (2日間)

### 概要

本コースは、統合化されたマクロ・ソリューションを開発し、実装するための概要を知りたい経験豊かなSASマクロ・プログラマーのためにデザインされています。新しいテクニックを利用したマクロ・プログラムを紹介しています。

- ・マクロ・アプリケーション開発に対するフレームワークの作成
- ・再利用可能なマクロの開発
- ・データの読み込みと処理
- ・マクロ・パラメータの引き渡しと処理

### 受講対象

マクロ機能を一連に理解している経験豊かなSASマクロ・プログラマー

### 前提知識

「SASマクロ言語1: 必須要素」を受講済みか、同程度の知識のある方  
また、一連のDATAステップ・プログラムに対する理解も必要です。特に次のことが必要になります。

- ・繰り返し処理、条件付き処理を含むマクロ・プログラムの記述
- ・ローカルとグローバル・マクロ変数の作成
- ・SYMPUTXルーチンを使用したマクロ変数の作成
- ・間接マクロ変数参照の利用
- ・SQLプロシジャのSELECTステートメントのINTO句の利用

### 学習内容

- ・マクロ・アプリケーション開発に対するフレームワークの作成
- ・再利用可能なマクロの開発
- ・データの読み込みと処理
- ・マクロ・パラメータの引き渡しと処理

### コンテンツ

- イントロダクション
  - ・コース概要
- マクロ・アプリケーション開発のためのフレームワーク
  - ・ベスト・プラクティスの適用
  - ・デバッグとトラブル・シューティング
  - ・カスタム・メッセージの生成
  - ・効率的なマクロの作成
  - ・シンボルテーブルの理解
  - ・ポータブル・アプリケーションの作成(自己学習)
- データの読み込みと処理
  - ・SASデータセットの処理
  - ・外部ファイルの処理
- 再利用可能なマクロの開発
  - ・マクロルーチンの開発
  - ・マクロ関数の開発
- マクロ・パラメータの引き渡しと処理
  - ・パラメータ値の検証
  - ・データ依存のマクロの呼び出し
  - ・特殊文字の作業

第1回 社員総会・教育セミナー

日 程 : 2010年6月12日(土) (開場 13:00)

会 場 : 東京大学弥生講堂 一条ホール

(地図 : <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html> )

- 14:00~14:45 **社員総会** 非会員の方もご参加いただけます
- 15:00~17:10 **教育セミナー**  
**シンポジウム『臨床試験とレギュラトリーサイエンス』**  
定 員 : 250名  
参加費 : 正会員・学生会員・賛助会員 3,000円  
非会員 6,000円
- 17:45~19:00 **懇談会** (ホール横ロビー)  
定 員 : 40名  
参加費 : 一律 1,500円

---

**教育セミナー**

**シンポジウム『臨床試験とレギュラトリーサイエンス』**

座長 川上 浩司 (京都大学大学院医学研究科 薬剤疫学分野 教授)

- 15:00~15:10 「医薬品開発の諸課題とレギュラトリーサイエンスへの期待」  
(京都大学大学院医学研究科 薬剤疫学分野 教授) 川上 浩司
- 15:10~15:40 「国際水準の臨床試験における日本の役割」  
(慶應義塾大学医学部・クリニカルリサーチセンター長・教授) 佐藤 裕史
- 15:40~16:10 「企業における臨床試験推進の試み」  
(バクスター株式会社 執行役員・薬事薬制本部長) 廣田 直美
- 16:10~16:40 「共同先端生命医科学(レギュラトリーサイエンス)が目指すもの」  
(東京女子医科大学・早稲田大学大学院共同教育課程 笠貫 宏  
共同先端生命医科学専攻 教授)
- 16:40~17:10 討 論
- 17:45~19:00 懇談会

## 平成22年度 治験・臨床研究コーディネーター 初任者研修 募集要項

主催：独立行政法人国立病院機構本部

### 1. 研修目的

治験の国際化にも対応し得る質の高い治験を迅速かつ効率的に推進することができる治験コーディネーターの育成を図る。

### 2. 対象者

下記のいずれも満たす者

- ・医療機関に所属し、現在治験業務に従事し、その実務経験が3年未満の者
- ・機関の長または所属部署の長から推薦を受けた者

### 3. 開催期日

平成22年6月15日(火)～18日(金)

※プログラムは別添参照

### 4. 会場

国立病院機構本部 1階講堂

〒152-0021 東京都目黒区東が丘2-5-23 Tel 03(5712)5087

### 5. 募集人員

80名程度

### 6. 研修費用

無料(但し、研修に係る旅費・交通費・宿泊費等については研修生負担となります。)

### 7. 修了証

全ての講義を受講され、研修終了後の修了報告書等を提出した方に受講証明書を交付します。

### 8. 申し込み方法

受講者調書を国立病院機構本部総合研究センター 治験研究部 治験推進室まで郵送にてお申し込みください。

締め切りは平成22年5月31日(月)必着です。

<書類送付先・問合せ先>

国立病院機構本部 総合研究センター 治験研究部 治験推進室

担当：

〒152-0021 東京都目黒区東が丘2-5-23 Tel 03(5712)5087 Fax 03(5712)5088

※封筒に「CRC初任者研修」と朱書で記載してください。

※返信用封筒1枚(定型長形3号に宛先を記載し切手貼付のこと)を同封してください。

### 9. その他

- 1) 応募者多数の場合は選考により参加できない場合もあります。
- 2) 参加の可否は6月7日(月)までに書面をもってお知らせいたします。
- 3) 提出していただいた書類は返却いたしません。
- 4) ICレコーダー、カメラ、ビデオ撮影はお断りしています。

平成22年度 治験・臨床研究コーディネーター 初任者研修 プログラム(案)

日程:平成22年6月15日(火)~18日(金)  
場所:国立病院機構本部1階講堂

	時間 (質疑応答含)	所要時間 (分)	内容	講師案(敬称略)
6/15 (火)	9:00 ~ 9:30	30	臨床試験、治験にまつわる用語の解説	志賀 朋恵 (国立病院機構本部 治験専門職)
	9:30 ~ 10:00	30	治験等において看護師がかかわる意義	伊藤 文代 (国立病院機構本部 サービス・安全課長)
	10:00 ~ 10:30	30	治験等において薬剤師がかかわる意義	横山 康幸 (国立病院機構本部 薬事専門職)
	10:30 ~ 11:00	30	治験等において検査技師がかかわる意義	奥田 薫 (国立病院機構本部 臨床検査専門職)
	11:00 ~ 11:10	10	休憩	
	11:10 ~ 12:10	60	治験と臨床研究	島津 暉 (国立病院機構 京都医療センター)
	12:10 ~ 13:10	60	昼食・休憩	
	13:10 ~ 14:00	50	厚生労働省の治験・臨床研究推進施策	後藤 乃扶子 (厚生労働省医政局研究開発振興課)
	14:00 ~ 15:00	60	医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP省令)	井上 和幸 (厚生労働省医薬食品局審査管理課)
	15:00 ~ 15:15	15	休憩	
	15:15 ~ 16:15	60	臨床研究に関わる倫理指針	井本 昌克 (厚生労働省医政局研究開発振興課)
16:15 ~ 17:15	60	臨床研究における倫理的な考え方について	尾藤 誠司 (国立病院機構東京医療センター)	
6/16 (水)	9:00 ~ 10:00	60	治験事務局・IRB事務局業務について	水沼 周市 (国立病院機構本部 治験専門職)
	10:00 ~ 10:10	10	休憩	
	10:10 ~ 11:10	60	臨床薬物動態の基礎	安原 真久 (東京医科大学歯学部附属歯科臨床薬理部)
	11:10 ~ 11:20	10	休憩	
	11:20 ~ 12:20	60	治験業務概要書と治験実施計画書の読み方	高橋 祐美子 (ファイザー株式会社)
	12:20 ~ 13:20	60	昼食・休憩	
	13:20 ~ 14:20	60	統計(基礎)	佐藤 俊哉 (京都大学大学院医学研究科 教授)
	14:20 ~ 14:30	10	休憩	
	14:30 ~ 15:30	60	国際共同治験の現状	宮田 雅代 (日本製薬工業協会)
	15:30 ~ 16:00	30	国際共同治験について(医療機関から)	寺山 恵子 (国立病院機構 四国がんセンター)
	16:00 ~ 16:10	10	休憩	
16:10 ~ 17:10	60	治験における補償と賠償	岡田 毅之 (日本製薬工業協会)	
6/17 (木)	9:00 ~ 10:15	75	治験依頼者の役割と医療機関・CROへ期待すること ~モニタリング・監査の実際~CROについて	谷澤 公吉 (日本製薬工業協会)
	10:15 ~ 11:15	60	承認申請資料の基準適合性調査	佐藤 啓 (医薬品医療機器総合機構 信頼性保証部)
	11:15 ~ 11:25	10	休憩	
	11:25 ~ 12:25	60	データマネジメントについて ~症例報告書・EDC	三沢 秀敏 (日本製薬工業協会)
	12:25 ~ 13:30	65	昼食・休憩	
	13:30 ~ 14:10	40	データマネジメントの実際	中村 和美 (国立病院機構本部 治験推進室 室長)
	14:10 ~ 15:10	60	【総論】CROとは	森下 典子 (国立病院機構近畿ブロック 統括御座医課)
	15:10 ~ 16:20	10	休憩	
	16:20 ~ 15:50	30	CRO業務の実際 治験開始から終了までの流れ、被験者リクルート補助、 スケジュール管理の実際	高木 恵美 (国立病院機構東京医療センター)
	16:50 ~ 16:20	30	CRO業務の実際 被験者ケアと他部門とのコーディネートの実際	斎藤 美穂子 (国立病院機構本部 治験専門職)
	16:20 ~ 16:30	10	休憩	
16:30 ~ 17:15	45	知識確認テスト	水沼 周市 (国立病院機構本部 治験専門職)	
6/18 (金)	9:00 ~ 10:00	60	知識確認テストの解答と解説	水沼 周市 (国立病院機構本部 治験専門職)
	10:00 ~ 10:45	45	市民からみた治験等のイメージ	南 砂 (読売新聞東京本社編集委員)
	10:45 ~ 12:15	90	グループディスカッション(テーマ:自己の役割について)	志賀 朋恵 (国立病院機構本部 治験専門職)
	12:15 ~ 13:15	60	昼食・休憩	
	13:15 ~ 14:30	75	総括(発表と研修全体の質疑応答)	志賀 朋恵 (国立病院機構本部 治験専門職)
	14:30 ~ 14:40	10	休憩	
	14:40 ~ 15:00	20	修了証授与	

# ヘルスアウトカムリサーチ支援事業

事業紹介

組織

研究一覧

成果

リンク

## 第4回ヘルスアウトカムリサーチ支援事業(CSP-HOR)年会」

財団法人パブリックヘルスリサーチセンターヘルスアウトカムリサーチ支援事業事務局では、下記の要領で「第4回ヘルスアウトカムリサーチ支援事業(CSP-HOR)年会」を開催いたします。

今回は、「医療データベース」にスポットを当て、「いよいよ始まる！医療データベースの研究利用と社会還元」をテーマに、世界と日本の現状に焦点を当てた講演と、その可能性と課題について、幅広い分野のシンポジストの参加によるディスカッションを行います。皆様からの活発なご意見・ご質問を交えながら、進めていきたいと思っております。

また、2009年12月にFDAから発表された「PRO(患者の主観的アウトカム)を用いた医薬品・医療機器申請のガイダンス」の解説、CSP-HOR支援研究の中からの最新の成果も発表いたします。

年会終了後、懇親会を開催いたします。

皆様、ご多忙の折とは存じますが、ぜひご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

ヘルスアウトカムリサーチ支援事業運営委員会

運営委員長 大橋靖雄(東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻)

副運営委員長 下妻晃二郎(立命館大学総合理工学院 生命科学部)

### 記

#### 「第4回ヘルスアウトカムリサーチ支援事業(CSP-HOR)年会」

テーマ	「いよいよ始まる！医療データベースの研究利用と社会還元」
日時	2010年7月3日(土) 10:30～17:40 開場:10:00
会場	東京大学弥生講堂 一条ホール 定員200名 <a href="http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html">http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html</a>
会費	一般・企業 ¥3,000 学生 ¥1,000 ※ご参加費は当日受付にて承ります。

#### 懇親会

時刻	18:00～19:30
会場	東京大学弥生講堂 一条ホール ホワイエ
会費	¥2,000 ※ご参加費は当日受付にて承ります。

お申込み受付	5月10日(月)～6月30日(水) <a href="#">お申込みフォーム</a>
お問合せ	財団法人パブリックヘルスリサーチセンターHOR事務局
メールアドレス	<a href="mailto:info@csp.or.jp">info@csp.or.jp</a>
TEL	03-5287-2633



## プログラム

### 開会の挨拶 10:30 ~ 10:40

大橋靖雄先生(東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・HOR 運営委員長)

### 第1部【FDA PRO (Patient-Reported Outcomes)ガイドンスの解説】 10:40 ~ 11:20

PRO(患者の主観的アウトカム)を用いた医薬品・医療機器申請の新ガイドンスの解説

座長:大橋靖雄先生(東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・HOR 運営委員長)

演者:平 成人先生(岡山大学病院 腫瘍・胸部外科)

### 第2部【ヘルスアウトカムリサーチ(HOR)研究の成果】 11:20 ~ 12:00

座長:渡辺隆紀先生(仙台医療センター 乳腺外科)

1. 「N-SAS BC04:ホルモン感受性閉経後乳がん術後補助療法におけるエキセメスタン、アナストロゾール、タモキシフェン投与のランダム化比較試験」について  
武井寛幸先生(埼玉県立がんセンター 乳腺外科)11:20 ~ 11:40
2. 「N-SAS BC02:腋窩リンパ節転移陽性乳がんを対象とした術後化学療法ランダム化比較試験」について  
大住省三先生(四国がんセンター 乳腺科)11:40 ~ 12:00

### 昼食・休憩 12:00 ~ 13:00

### 第3部 講演【大規模データベースの利用環境】 13:00 ~ 14:45

アウトカム研究に利用できるデータベースとは?どのような手順で利用できるのか?

大規模データベースの現状を整理する。

座長:下妻晃二郎先生(立命館大学総合理工学院生命科学部・HOR 副運営委員長)

1. 日本の政府(公的)統計データベース:井伊雅子先生  
(一橋大学大学院 経済学研究科)13:00 ~ 13:35
2. 日本のデータベース:久保田 潔先生  
(東京大学大学院医学系研究科 薬剤疫学)13:35 ~ 14:10
3. 米国の大規模データベース(HCUP・SEER-Medicare)  
赤沢 学先生(金沢大学医薬保健研究域 薬学系)14:10 ~ 14:45

### 休憩 14:45 ~ 15:00

### 第4部 シンポジウム【大規模データベースを用いて何ができるのか? その可能性と課題】 15:00 ~ 17:30

具体的なデータベースを用いたアウトカム研究の紹介。

そして、そのような研究を通して見えてくる日本の大規模データベース利用の可能性と課題について議論する。

座長: 今井博久先生(国立保健医療科学院 疫学部) 白岩 健先生(立命館大学総合理工学院 生命科学部)

1. レセプト  
岡本悦司先生(国立保健医療科学院 経営科学部) 15:00 ~ 15:15
2. DPC  
康永秀生先生(東京大学大学院医学系研究科 医療経営政策学) 15:15 ~ 15:30
3. 心臓外科データベース  
宮田裕章先生(東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学) 15:30 ~ 15:45
4. 電子カルテからの標準化データベース構想  
大江和彦先生(東京大学大学院医学系研究科 社会医学専攻) 15:45 ~ 16:00
5. 医療経済研究への利用  
池田俊也先生(国際医療福祉大学薬学部・JSPOR 日本部会会長) 16:00 ~ 16:15
6. 臨床医の立場から  
黒井克昌先生(都立駒込病院 乳癌外科・臨床試験科) 16:15 ~ 16:30

## ディスカッション

16:30 ~ 17:30

## 閉会の挨拶

17:30 ~ 17:40

下妻晃二郎先生(立命館大学総合理工学院 生命科学部)

## 懇親会

18:00 ~ 19:30

会場: 東京大学弥生講堂 一条ホール ホワイエ

# 平成22年度 初級者臨床研究コーディネーター（CRC）養成研修 研修生募集要項

主催	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	
実施	財団法人日本薬剤師研修センター	
後援	厚生労働省	社団法人日本病院会
(予定)	文部科学省	社団法人日本医療法人協会
	社団法人日本医師会	社団法人日本精神科病院協会
	社団法人日本歯科医師会	社団法人全日本病院協会
	社団法人日本薬剤師会	社団法人全国自治体病院協議会
	社団法人日本病院薬剤師会	社団法人日本私立医科大学協会
	社団法人日本看護協会	日本製薬工業協会

## 1. 目的

医薬品・医療機器治験の「スピード」「コスト」「質」の改善のため、我が国では、平成15年に「全国治験活性化3カ年計画」（平成15年4月30日文部科学省・厚生労働省）が策定され、大規模治験ネットワークの構築や治験コーディネーターの養成等が進められました。しかしながら、治験届出数に漸増の兆しは見られるものの「治験の空洞化」に対する危機は続いており、平成19年4月より「新たな治験活性化5カ年計画」（平成19年3月30日文部科学省・厚生労働省）が策定され、さらなる治験実施医療機関の体制整備、人材育成等の取組みが推進されています。

本研修は「新たな治験活性化5カ年計画」に基づき、CRCが臨床研究コーディネーターと称されたことにより、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下、「総合機構」という。）において、治験・臨床研究実施医療機関で確保が必要とされている臨床研究コーディネーターを養成し、それを通じて当該機関における適正な治験・臨床研究の実施と研修生派遣元医療機関における治験・臨床研究実施体制の整備促進に寄与することを目的としています。

## 2. 研修対象者（応募上の注意事項参照）

- ア) 派遣元医療機関：医療機関の長、薬剤部、看護部その他関係部門が治験・臨床研究を行うための体制づくりのために十分な理解を有していること
- イ) 対象者等：上記ア)の医療機関に所属し、かつ、ある程度以上の勤務経験を有しており、医療機関内での体制作りを中心的役割を果たしうる立場の者

## 3. 研修期間（「講義+実習」、「講義のみ」の2コースを設定：応募上の注意事項参照）

- 1) 講義 1週間：平成22年8月30日（月）～9月3日（金）
- 2) 実習 3週間：平成22年9月27日（月）～平成23年2月18日（金）の期間で設定予定

※ 実習期間については、参加者がCRCとして一定の実務経験を有すると認められる場合は「1週間コース」も可とする

#### 4. 研修場所

- 1) 講義 北里大学薬学部 1号館5階大講義室(東京都港区白金五丁目9-1)  
(アクセスについては <http://www.kitasato-u.ac.jp/pharm/faculty/access/index.html>  
参照)
- 2) 実習 (応募上の注意事項「5. 研修スケジュール」の項参照)

#### 5. 募集人数

- ・ 「講義+実習」： 約 100名
- ・ 「講義のみ」： 約 80名

6. 研修費用 無料(但し、研修に係わる旅費・交通費、宿泊費等については研修生負担となります。)

7. 修了証 研修終了後、修了報告書提出等の条件を満たした方に修了証書を交付します。

8. 応募締切 平成22年8月6日(金) (必着)

※ 例年、申請書類に不備があり締切日までに必要な書類が揃わない場合が見受けられます。

全ての書類が必要に応じて修正され締切日までに提出されない場合は、いかなる場合も受け付けられませんので、余裕を持ってお手続きください。

#### 9. 書類送付・問い合わせ先

財団法人 日本薬剤師研修センター CRC 養成研修担当  
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9-13 三会堂ビル6階  
Tel: 03-3568-8201 (代表) Fax: 03-3568-0821

## 応募上の注意事項

#### 1. 応募人数

原則として1施設から研修生は2名以内とします。

応募者多数の場合は様式1にある研修生1を優先しますことを予めご了承ください。

#### 2. 選考基準

1) 派遣元医療機関 (原則として以下のア. ~エ. を満たすこと)

ア. ある程度、治験の実績を有すること。

イ. 原則として、ある程度以上の勤務経験を有する薬剤師、看護師等を派遣できること。

ウ. 派遣した研修生を当該研修期間中、研修に専念させることができること。

エ. 当該研修修了者がCRCの業務を行うことが見込まれること。

2) 研修対象者 (1)の医療機関に所属し、以下のア. ~エ. を満たすこと。)

ア. 病院勤務年数が通算3年以上であること。